

今回は、当院の医療の安全・安心を提供するための活動についてご紹介します。

当院では、医療事故や病院感染の予防対策や、発生時の迅速な対応を目的に、平成16年度より医療安全対策室を設置しています。現在医療安全対策室では、専任リスクマネージャー（医療安全管理者）と感染管理専任看護師が中心となって活動しています。

## 専任リスクマネージャー（医療安全管理者）の活動について

専任リスクマネージャーは、病院全体の医療の安全・事故の予防のための活動を行っています。主な内容としては、トイレ内で患者さんの具合が悪くなった際の対応方法など、病院内の安全・安心を提供するため、年間計画をたて、職員への教育を行っています。特に重点を置いているのは、院内から提出された報告書から、事故を予防する対策案を立て、点検することです。病院内のすべての職種で構成される医療安全予防部会等で、各部署との情報交換を行い、再発防止のために取り組んでいます。

5月に開催された看護の日のイベントでは、病院を訪れた患者さんや家族、面会者の方を対象に、人工呼吸や心臓マッサージの方法と、最近駅などで見かけるようになったAED（自動体外式除細動器）の取扱いを実際に体験してもらいました。多くの方に参加していただき、知識・技術を身に付けていただく良い機会となりました。



## 感染管理専任看護師の活動について

感染管理とは、病院においてすべての患者、家族、訪問者、医療従事者、研修生等の人々を感染から守ることです。当院では、日本看護協会が認定している感染管理認定看護師という専門の看護師を専任として、病院内に感染対策をすすめる看護師や感染対策チームをつくり、病院内のあらゆる部署の職員と協働し、病院内で発生した感染症の調査や感染症発生時の対応、感染に関する教育指導などの活動を行っています。また、感染予防対策に関する質問や相談にも随時対応しています。



最も力を入れている活動の一つに、職員への教育があります。左の写真は、先日、病院内の職員を対象に「中心静脈カテーテル（心臓の近くにある太い静脈から栄養を入れる管）の感染防止対策」の研修会を実施した場面です。看護師による、カテーテル（管）の挿入時の操作について実演を行いました。カテーテル感染防止のために、職員一同熱心に取り組んでいます。

♪ お問い合わせ先 医療安全対策室 内線（2203） ♪

♪ ご希望される方には『多摩南ミニ通信』を面会受付でお渡ししております。 ♪